



トリコモナス？遺伝子検査でわかるように！



最近、STD（Sexual Transmitted Diseases）性行為によって感染する感染症が増加しています。

中でも膣トリコモナス（Trichomonas vaginalis : TV）は世界中で最も感染者が多い原虫です。

今まで、検査には尿沈渣で活動しているトリコモナスを見つける方法や細菌培養検出する方法などが用いられていましたが、活動していなかったり、死んでいたりすると感染しても正しい結果が得られないとが多く、確定診断が難しい感染症でもありました。

この度、膣トリコモナスの遺伝子検査が、保険適用となりましたのでご案内致します

検査要項

項目コード	検査項目名	検査方法	材料・容器		検査実施料 (判断料)	基準値	報告日数
2738	膣トリコモナスおよびマイコプラズマジェニタリウム* ¹ 同時核酸検出	リアルタイムPCR法	分泌物 	部分尿 5mL 	350点 微生物150点	陰性	4～6日

・リアルタイムPCR法により、膣トリコモナス感染症を疑う患者であって、鏡検が陰性又は実施できないもの又はマイコプラズマ・ジェニタリウム感染症を疑う患者に対して治療選択のために実施した場合及び膣トリコモナス感染症又はマイコプラズマ・ジェニタリウム感染症の患者に対して治療効果判定のために実施した場合に算定する

*¹今回同時測定が可能となったマイコプラズマジェニタリウムについて

肺炎の原因となるマイコプラズマ・ニューモニエ（M.pneumoniae）はよく知られていますが、性感染症を引き起こすマイコプラズマ（M.gentilium : MG）もいることが1981年に発見されました。淋菌やクラミジアと同様に尿道や膣に感染し尿道炎や子宮頸管炎をおこします。MGはトリコモナスと同様、培養検査では検出することが難しいため、正確な診断や治療薬が選択ができませんでした。今回の保険適用は性感染症（STD）の原因微生物特定と治療薬選択に役立つと期待されています。

重複感染
も注意



クラミジア・トラコマチス（CT）、淋菌（NG）、膣トリコモナス（TV）、マイコプラズマ・ジェニタリウム（MG）の性感染症4種は重複感染の可能性が高いため、CT/NGの感染が疑われた場合、TV/MGの感染も考慮し検査を進める必要があります

放置すると不妊の可能性も

非淋菌性尿道炎

診断・治療の流れ

子宮頸管炎

2022年9月22日に提言された「非淋菌性尿道炎および子宮頸管炎の診断・治療の流れ」（日本感染症学会）を参考にしました

尿道炎で受診問診、自覚症状やグラム染色等で淋菌性尿道炎が否定、または非淋菌性尿道炎を強く疑った場合、CT/NGとTV/MG核酸増幅検査を実施
非淋菌性尿道炎（CT尿道炎）として処方

1～2週間後再診、CT陰性、MGが陽性、膿尿持続
STFXorMINOorDOXYを処方

1～2週間後に再診し治癒確認

帯下異常や不正出血を主訴に受診、問診、自覚症状、性交歴を聴取、膣鏡診、帯下の性状、出血、膣壁の発赤を確認。

CT/NGのPCR検査、膣分泌物からトリコモナス鏡検

CT/NGが陰性であれば1～2週間経過観察
自覚症状が改善しなければ、TV/MのPCR検査
CTとNGが同時または一方が陽性であった場合は感受性を有する薬剤を投与し治癒を確認する。
治癒確認後1～2週間経過しても自覚症状の改善がなければTV/MGのPCR検査、MGが陽性であればSTFXorMINOorDOXYを処方、TVが陽性であればMNZを処方

2週間以上あけてMG、TVの消失を核酸増幅法検査により確認



トリコモナスPCR算定上の注意

診断上、CT/NGとTV/MGのPCR検査を同時に検査することが、望ましいのですが、査定される可能性があります。トリコモナスはまず鏡検で否定、CT/NGのPCRで淋菌、クラミジアを否定された場合に検査をすることをお勧めいたします。またCT/NGの検体では追加ができませんので、新たに検体採取をお願いいたします。

トリコモナスについて Q&A



いつ・どこで感染するの？

主な感染経路は、感染者との性行為です。トリコモナス原虫は女性の膣や子宮の入り口、男性では前立腺や精のうに寄生しています。

精液や膣分泌液にトリコモナス原虫が潜んでいるため、感染者との性行為によって感染してしまいます。



どんな症状？

女性の主な症状は、陰部のかゆみやおりもの、排尿痛、性行痛。男性では排尿痛、尿道のかゆみ、分泌液がでるなどです。無症状の場合もあります。



病院は何科？ 治癒しますか？

トリコモナスは自然治癒することはないので、病院を受診して治療してください。
女性は婦人科、男性は泌尿器科を受診し「服薬治療」、「患部に直接投薬する」方法などの治療を行ってください。
治療期間は7日～10日くらいです。治癒は自己判断せずに、病院で陰性確認を行うことが大切です。